



第28回熊本県国保地域医療学会で研究発表をします！

令和6年10月26日に、国保地域医療学会が開催されます。

当院からは、大島事業管理者兼院長が学会長を務められ、4人の職員が研究発表を行います。

国保学会とは、、、？

国民健康保険関係者、国民健康保険診療施設の関係者が一堂に会し、相互研究を行い、地域住民が支えあい安心して暮らすことが出来るよう多職種が連携を強化することで、超高齢化社会に対する地域包括医療・ケアの充実強化と地域包括ケアシステムの構築の強化を目的とした学会です。

学会テーマ 「地域包括ケアシステムのさらなる深化
～地域共生社会の実現に向けて～」

発表演題

タイムアウト導入に向けての取り組み ～患者誤認防止策へのスタッフの意識づけ～	看護師
経鼻経管栄養チューブ留置中の患者へ食支援の検討	看護師
転倒歴のある患者と転倒転落アセスメントシートを共同評価した症例	看護師
院外処方における疑義照会簡素化のプロトコールの機能評価	薬剤師

今後も、学会に参加し、より質の高い地域包括ケアシステムの構築を目指します。

町立病院は「くまもとメディカルネットワーク」の利用施設です！ 「くまもとメディカルネットワーク」に参加登録しませんか？

1. くまもとメディカルネットワークって何？

くまもとメディカルネットワーク 利用状況	県内利用施設数	参加者数
	796施設	135,860名

※令和6年7月中旬ごろの数値です。

くまもとメディカルネットワークとは、病院・診療所・歯科診療所・薬局・訪問看護ステーション・介護施設等をネットワークで結び、参加者（患者様）の診療・調剤・介護に必要な情報を共有し、医療・介護サービスに活かすシステムです。

参加者（患者様）がくまもとメディカルネットワークに参加するためには、くまもとメディカルネットワークを利用している病院・診療所・歯科診療所・薬局・訪問看護ステーション・介護施設等に『くまもとメディカルネットワーク参加同意書』の提出が必要となります。

2. くまもとメディカルネットワークに参加するとどうなるの？

参加者（患者さん）の受診時の状況や治療歴、検査データ、レントゲン等データなどを利用施設で共有できるようになり、より質の高い医療や介護を受けることができるようになります。

3. こんな時に便利！！

- ①転院先の病院や紹介先の病院でも患者様の薬や検査、レントゲン等の情報が共有でき、検査やお薬の重複を防ぐなど、安心した医療を受けることができます。
- ②もしもの体調悪化等により意思表示ができない状態で救急搬送された場合に、基礎疾患情報や服薬情報、アレルギー情報などが搬送先で把握できるため適切な処置に繋げることができます。
- ③災害で町立病院のカルテが消失した場合でも、参加者（患者様）のカルテは県医師会のサーバーを通じて保管されておりますので、近隣のくまもとメディカルネットワーク利用病院で引き続き医療を受けることができます。

4. 参加方法

町立病院で申込ができます。参加に際しての費用はかかりません。

※ご参加にあたっては、同意書のご提出が必要となります。

学校の話

町内小中学校の様子をお知らせするため、定期的に掲載を行っています。

〈菊水中学校〉

「命の講話」「命の日人権集会」

12年前に本校で起こった痛ましい事件を忘れることなく、命の大切さを全校生徒で考え、語り合いでいこうと6月7日(金)に、「第1回命の講話」と7月10日(火)に「命の日人権集会」を開きました。「第1回命の講話」では、玉名小学校の校長を最後にご退職され、現在は熊本市の真和中・高等学校の専任講師をされている戸田俊文先生に「ネット社会をかしこく豊かに生きるために」と題してご講話いただきました。人を傷つけない、自分も傷つかないネットとの付き合い方をどうしていくのか、改めて考えさせられた時間になりました。

また、今年度の「命の日人権集会」では、黙祷を捧げた後、全生徒が命の大切さについて作文を綴った中から1年生中山さんが「大切な弟」、砂川さんが「人の個性について」、2年生坂井さんが「小学校5年生で体験したこと」、3年生廣田さんが「私の左耳のこと」と題して発表してくれました。それぞれが家族の大切さや自らの体験、これまで生きてきた中での思いなどを語り、発表後には聞いていた他の生徒から返しの言葉や一言感想文をもらいました。心の交流ができた有意義な時間となりました。



〈三加和中学校〉

学び合いを通して互いに高め合える生徒の育成をめざして

今年度の中学校校内研究のテーマは「自他の良さを認め、互いに学び合い高め合える児童生徒の育成～コミュニケーションを土台に学び合い、思考し、表現することができる生徒の育成を目指して～」と設定し、全職員が同じ方向性で授業の工夫・改善を行っています。

本誌で前回お伝えしたスキルアップの活動を通して、生徒たちのコミュニケーション能力や自己認知能力を高め、学びの土台を築いています。そのうえで、授業実践では学び合いを通してお互いに学習内容の理解を深めています。

7月には、小中合同の授業研究会を行いました。中学校は「数学」（中学2年生）、小学校は「国語」（小学1年生）の授業を互いに参観し、9年間を見据えた児童生徒の育成のために意見交換をしました。

中学校の数学の授業では、学び合いを通して考え、自分の意見を発表する授業を展開しています。互いに自分の考えを出し合うことで、自分の考えに少し不安を抱いていた生徒も安心して発表をすることができるようになっています。また、聞き手を意識した発表の仕方について、互いの発表を学びながらさらに高めているところです。

今後も小中連携しながら、継続して取り組むことで、互いに学び合い高め合える生徒を育てていきたいと思っています。

